

Station*Mobile*TM

for WS011SH

取扱説明書

目次

はじめに

ソフトウェア製品使用許諾.....	4
許諾事項.....	4
禁止事項.....	4
契約の終了.....	4
保証と免責.....	4
地上デジタル放送の受信地域について.....	5
制限事項.....	5
著作物・映像・画像データの使用について.....	5
本書について.....	6
商標について.....	6

StationMobile をはじめよう

StationMobile でできること.....	7
ワンセグ放送の視聴.....	7
字幕サービス.....	7
電子番組表 (EPG) の表示.....	7
基本操作.....	8
WS011SH 本体のキー操作.....	8
StationMobile 画面でのタップ操作.....	9
初回起動時の設定.....	10
起動と終了.....	14
起動する.....	14
終了する.....	15

StationMobile の画面構成

表示モード.....	16
各部名称と機能.....	17
インフォメーションバー.....	17
ワンセグ放送映像ビュー.....	18
字幕ビュー.....	18
EPG ビュー.....	19
操作パネル.....	20

チャンネルバー	21
表示モード切換バー	21

StationMobile 操作ガイド

ワンセグ放送を見る	22
チャンネルを切り換える	22
表示モードを切り換える	23
音量を調節する	24
チャンネルを設定する	25
新しくチャンネルリストを作る	25
チャンネルリストを選択する	28
その他の設定（詳細設定画面）	29
「詳細設定」画面	29

付録

困ったとき	30
こんなときは？	31
サポート情報	32
ユーザーサポートについて	32
ホームページについて	32
著作権に関する注意	33

はじめに

このたびは、「StationMobile」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品は、お使いのWS011SHのUSBポートに接続ケーブル経由でチューナーユニット（以下、本機）を接続することで、ワンセグ放送をお楽しみいただけます。本製品を正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書（以下、本書）をご覧ください。

ソフトウェア製品使用許諾

本製品をインストールする前に、このソフトウェア製品許諾書（以下、本契約）を必ずお読みください。本ソフトウェアをインストールする場合は、お客様が以下の内容にご同意いただいたものとさせていただきます。

お客様は、本契約の下記使用許諾条件にしたがって、ソフトウェアプログラム（以下、本プログラム）並びに取扱説明書などの付属物を使用する譲渡不能な非独占的権利を株式会社ピクセラより許諾されます。

許諾事項

お客様に本プログラムを1台のコンピュータにインストールして利用する権利を非独占的に許諾いたしますが、この権利を第三者に譲渡することはできません。

お客様は、バックアップの目的でのみ、著作権に関する表示が元の状態のまま残されることを条件に、コンピュータ読み取り可能な形態で本プログラムを1部複製できます。

本ソフトウェアで使用している専用フォントは、本ソフトウェアでのみ使用することを許諾します。

禁止事項

本プログラムをネットワーク上で使用することはできません。

お客様は、本プログラムを再使用許諾、譲渡、頒布、貸与その他の方法により第三者に使用もしくは利用させることはできません。

お客様は、本プログラムおよび付属物の全部または一部を修正、改変、逆コンパイルまたは逆アセンブルすることはできません。または第三者にこのような行為をさせてはなりません。

契約の終了

お客様が、本プログラムまたは付属物を許可なく複製したり、上記許諾条件に違反した場合には、本契約は自動的に終了するほか、株式会社ピクセラにより他の法的な措置がとられることがあります。契約終了の場合、お客様は、本プログラム、付属物、複製物一切を廃棄または株式会社ピクセラに返還するものとします。

保証と免責

本プログラムおよび付属物は、明示黙示を問わず、商品性、お客様の特定の使用目的への適合性と合致するものではありません。また、株式会社ピクセラは、本プログラムの機能がお客様の要求と合致すること、あるいは本プログラムの作動に中断やエラーのないことを保証するものではありません。

株式会社ピクセラは、本プログラムの使用に付随または関連して生じる直接的または間接的な損失、損害などについて、いかなる場合においても一切責任を負わず、また本プログラムの使用に起因または関連してお客様と第三者との間に生じたいかなる紛争についても、一切責任を負いません。

地上デジタル放送の受信地域について

地上デジタル放送の受信地域と開局予定については、下記の URL でご確認ください。

■ 社団法人 地上デジタル放送推進協会 URL: <http://www.dpa.or.jp/>

制限事項

- ◆ 本製品は SHARP 製 WS011SH 専用です。
- ◆ 本製品はワンセグ放送が開始されている地域で、放送波が届く範囲で受信できます。
- ◆ 本製品は、日本国内のワンセグ放送専用です。BS、110 度 CS デジタル放送、地上アナログ放送、衛星デジタル放送などを見ることはできません。
- ◆ 受信できる放送局の番組表 (EPG) をすべて同時に表示することはできません。
- ◆ 本製品は、番組の録画・録画予約・視聴予約・データ放送には対応しておりません。
- ◆ ワンセグ視聴可能エリア内のすべての環境において、受信性能を保証するものではありません。
- ◆ WS011SH のファームウェア等のバージョンを常に最新状態にして、本製品をお使いいただくことをおすすめいたします。
- ◆ 本機のアンテナ入力端子に、BS アンテナ用電源等が重畳された信号線を接続しないでください。
- ◆ チューナーユニットの接続には製品付属の接続ケーブルを使用してください。

著作物・映像・画像データの使用について

- ◆ 本製品付属の CD-ROM に収録されているデータは、著作権法に基づいて著作権にともなうすべての権利が保護されています。著作権者以外の第三者が著作権者の許諾無しに販売、レンタル、譲渡、複製を行うことはできません。著作権法に違反する行為は、刑事罰の対象となりますのでご注意ください。
- ◆ 本製品付属の CD-ROM に収録されているデータは、お客様が個人で使用する場合に限り、使用を許諾されます。本製品付属 CD-ROM に収録されている画像データなどをお客様が商用として複製使用することはできません。また、お客様がデータを一部修正、改変したものを商用として使用することはできません。

本書について

- ◆ 本書の内容の一部およびすべてを無断で転載することは禁じられています。
- ◆ 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一不備な点や誤りなどにお気付きになりましたら、ユーザーサポートセンターまでご連絡ください。
- ◆ 本書では、Windows Mobile および WSO11SH の基本的な操作については記載しておりません。ウィンドウの操作など、基本操作は一般的な操作に準拠しております。
- ◆ 本書に使用している画像は、はめ込みの場合があります。
- ◆ 本書で使用しているソフトウェアの画面は製品開発中のものであり、実際とは異なる場合があります。
- ◆ お使いの環境によって、本書の記載内容と実際の表示や動作が異なる場合があります。
- ◆ 本書で使用しているマークは次のとおりです。

	特にご注意していただきたい内容について記載しています。
	本文内容の補足や参考にしていただきたい内容について記載しています。
	本書内で参照していただきたい項目について記載しています。

商標について

- ◆ Windows® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Windows® の正式名称は Microsoft® Windows® Operating System です。
- ◆ その他、記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標もしくは登録商標です。
- ◆ 本書では® および TM などの商標マークは省略させていただいております。

StationMobileをはじめよう

StationMobile でできること

ワンセグ放送の視聴

「StationMobile」は、WS011SHのUSBポートに接続ケーブル経由で専用チューナーユニットを接続してワンセグ放送を見ることができます。外出先でも、地上デジタルテレビ放送と同じ内容の番組を見ることができます。

字幕サービス

ワンセグ放送では、番組によって字幕情報が含まれているものがあります。「StationMobile」では、字幕を表示しながら番組を見ることができます。また、複数の字幕情報が含まれる場合は、表示したい字幕を選ぶこともできます。

電子番組表 (EPG) の表示

EPGとは「Electronic Program Guide (電子番組表)」の略で、画面上で最新の番組表を表示することなどができるサービスです。「StationMobile」では、現在受信している番組とそれ以降の番組情報を表示することができます。



ワンセグ放送とは

ワンセグ放送とは、地上デジタル放送のサービスの1つで、携帯電話、ノートパソコン、カーナビなどの移動端末向けに設計された放送波です。ワンセグ放送には、移動中でも安定した映像の受信ができるという特長があります。「StationMobile」では、地上デジタル放送で放映されている番組や字幕サービスなどを見ることができます。

基本操作

「StationMobile」を操作するには、「StationMobile」画面内のボタンやアイコンをタップする方法と、WS011SH本体のキーで操作する方法があります。

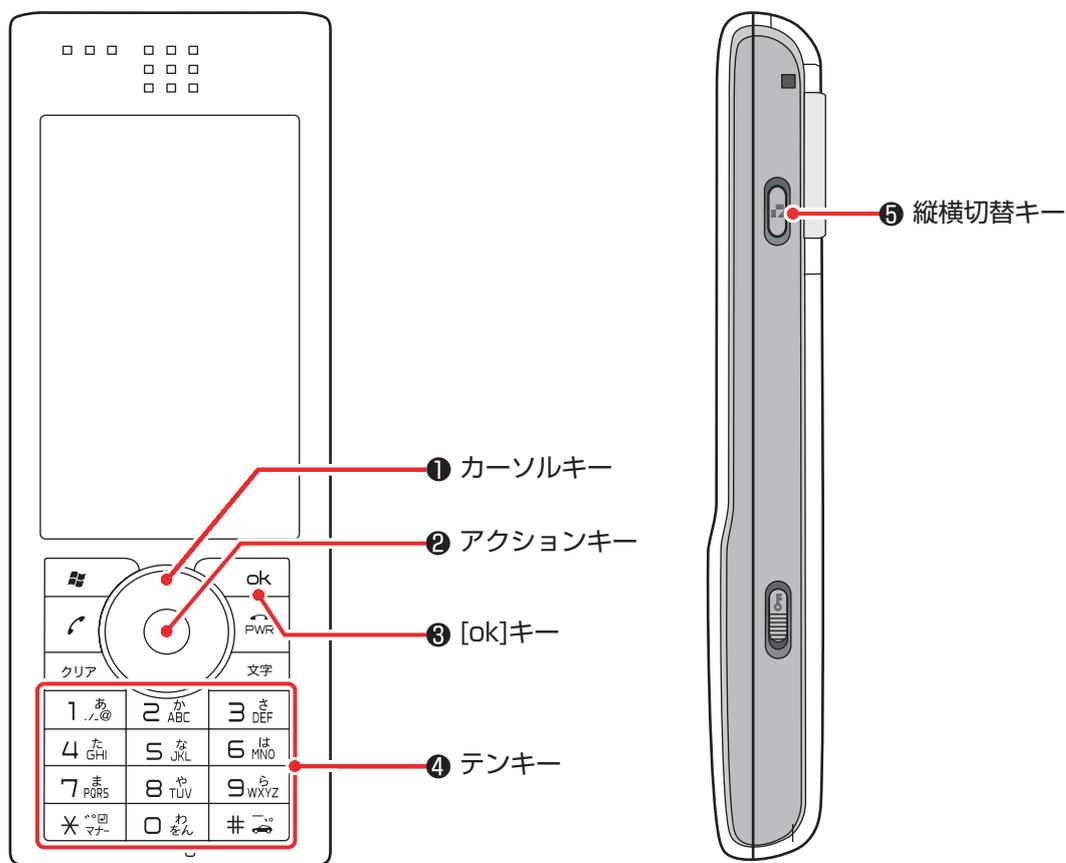
WS011SH 本体のキー操作

「StationMobile」は、WS011SH本体のキーを利用して操作することができます。

本書内で「キー操作」による操作方法として特記している場合は、右記のアイコンで表記しています。

 キー操作では

「StationMobile」の操作で利用するキーと、その役割は次の通りです。



①	カーソルキー	チャンネルを切り換えたり、番組表 (EPG) などのリストをスクロールします。(キーを上(左)／下(右)に動かします)
②	アクションキー	選択されたメニューを実行します。
③	[ok] キー	表示中のダイアログ画面を閉じたり、「StationMobile」を終了します。
④	テンキー	割り当てられたチャンネル番号 (ワンタッチ選局キー) を押すと、番組が切り換わります。
⑤	縦横切替キー	「全画面モード」に切り換えます。また、「全画面モード」の場合は、切り換える前の表示モードに戻ります。

StationMobile 画面でのタップ操作

「StationMobile」の画面に表示されたボタンに触れる（タップする）ことで操作できます。

本書内で「タップ操作」による操作方法として特記している場合は、右記のアイコンで表記しています。



画面上のボタンについては、P17～P21を参照してください。

初回起動時の設定

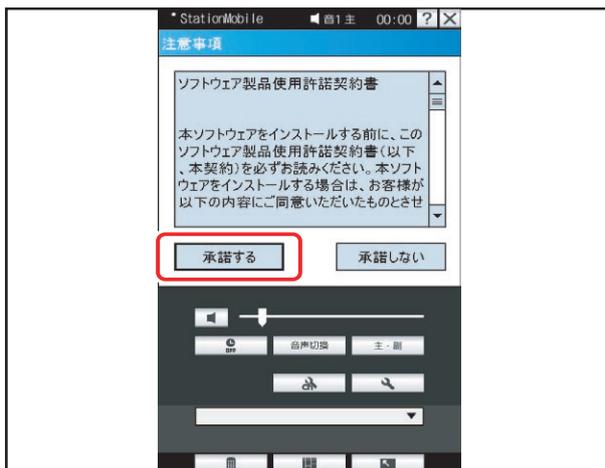
1 StationMobile を起動する



[スタート]メニュー-[プログラム]
-[StationMobile] を選択します。

→ 「ソフトウェア製品使用許諾契約書」の画面が表示
されます。

2 注意事項を承諾する



契約内容を確認して、[承諾する] をタップします。

3 起動中の他のアプリケーションを終了する



起動中の他のアプリケーションがある場合、ダイ
アログが表示されます。

終了するアプリケーションを選択して、[はい] を
タップします。

※ 選択しないアプリケーションは終了されません。
「StationMobile」の動作を安定させるため、すべ
てのアプリケーションを終了することを推奨しま
す。

4 チャンネルスキャンをする



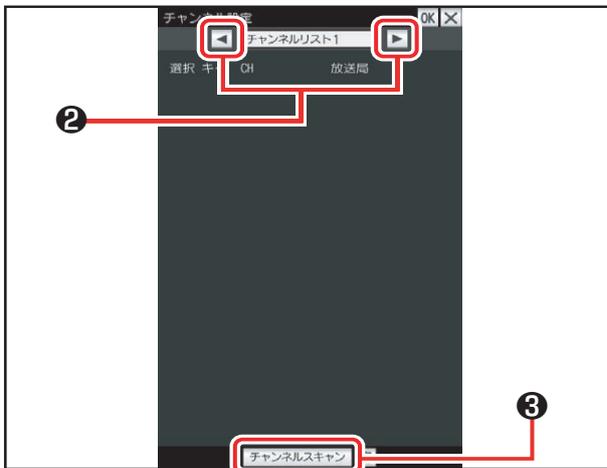
放送局をスキャンして、受信可能なチャンネルのリスト (チャンネルリスト) を作成します。

① [ok] ボタンをタップします。



チャンネルリストとは

チャンネルリストとは、チャンネルスキャンによって受信した放送局を1つのグループとして記憶させたものです。お使いになる地域ごとにチャンネルリストを作成しておくくと便利です。



② [◀][▶] ボタンで、リスト番号を選択します。

※ チャンネルリストは 10 個まで作成できます。

③ [チャンネルスキャン] ボタンをクリックします。



④ [OK] ボタンをタップします。

→ チャンネルのスキャンを開始します。

※ チャンネルスキャンに数分かかる場合があります。

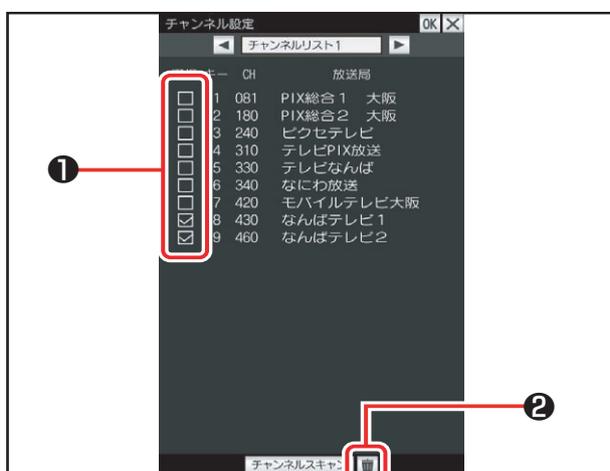


⑤ チャンネルスキャンが完了したら、[OK] ボタンをタップします。

→ 受信できるチャンネルの一覧が表示されます。

※ 受信できるチャンネルの一覧が表示されない場合は、受信状況に問題がある可能性があります。場所を変えてから、スキャンしてください。

5 スキャン結果から不要なチャンネルを削除する



① スキャン結果から受信しないチャンネルを選択します。

② [🗑️] ボタンをタップします。

💡 スキャン結果に同じ放送局名が複数表示された場合

同じ放送を複数の場所から放送している放送局がある場合、受信できただけリストに表示されます。視聴するときの受信状態によって使いわけたり、不要なものは削除するなどしてください。

6 ワンタッチ選局キーの割り当てを確認する



WS011SH 本体のテンキーでチャンネルを切り換えるためのキーの割り当てを確認します。キー番号を変更する場合は以下の操作を行ないます。

👆 タップ操作では

[キー] の列をタップして、ドロップダウンリストからキー番号を選択します。

👉 キー操作では

変更する [キー] が選択されている状態で、割り当てたい番号をテンキーで入力します。

7 チャンネルリストを確定する



[OK] ボタンをタップします。

→ 作成したチャンネルリストが有効になった状態で、「StationMobile」のワンセグ視聴画面に切り換わります。

【✕】ボタンをタップすると

【✕】ボタンをタップすると、「チャンネル設定」画面で行った操作をキャンセルして元の視聴画面に戻ります。

チャンネルスキャンの結果や、変更／修正内容などは保存されません。

以上で初回起動時の設定は完了です。

以降の操作方法をお読みにになり、「StationMobile」でワンセグ放送お楽しみください。

起動と終了

起動する

StationMobile を起動する



- ① [スタート]メニュー-[プログラム]-[StationMobile] を選択します。



- ② 起動中の他のアプリケーションがある場合、ダイアログが表示されます。
終了するアプリケーションを選択し、[はい]をタップします。
→「StationMobile」が起動します。



ダイアログを出さずに起動するには

「起動中の別アプリケーションを終了」ダイアログを表示せず、自動で他の起動中のアプリケーションを終了して、「StationMobile」を起動するよう設定することができます。
詳しくは「その他の設定（詳細設定画面）」(P29)を参照してください。



すばやく起動するには

あらかじめ「StationMobile」をメニューなどに登録しておくとう便利です。
メニューへの登録方法は以下の通りです。

- 1) [スタート]メニューから、[設定]を選択
 - 2) 「設定」画面の「個人用」タブ内、[メニュー]を選択
 - 3) リスト内、「StationMobile」にチェックを入れる
- 次回から、スタートメニューのリストに「StationMobile」が表示されます。

終了する

StationMobile を終了する



- 1 以下のいずれかの方法で、「StationMobile」を終了します。

タップ操作では

画面の [X] をタップします。

キー操作では

[<ok>] ボタンを押します。



- 2 確認画面で [はい] をタップします。

StationMobile の画面構成

表示モード

「StationMobile」には、以下の3種類の表示モードがあります。

■ EPGモード



インフォメーションバー

[P17参照]

ワンセグ放送映像ビュー

[P18参照]

字幕ビュー

[P18参照]

EPGビュー

[P19参照]

操作パネル

[P20参照]

チャンネルバー

[P21参照]

表示モード切替バー

[P21参照]

■ 操作モード



■ 全画面モード



※ 全画面モードは横向き表示のみです。

表示モードの切り換え方法

表示モードの切り換え方法については、「P23」を参照してください。

各部名称と機能

インフォメーションバー

「StationMobile」の画面最上部にあり、視聴状態についての情報などが表示されます。また、ヘルプ画面の表示や「StationMobile」の終了を行います。



番号	項目	説明
①	受信強度 (アンテナ本数表示)	ワンセグ放送の受信レベルを 4 段階で表示します。 3 良好 2 普通 1 微弱 0 受信不可
②	アプリケーション名 / ウィンドウ名	アプリケーション名や、表示中のダイアログ画面の名称が表示されます。
③	オフタイマーアイコン	オフタイマーを設定しているときに表示されます。下の部分の数字がセットした時間を表します。120 分、60 分、30 分、10 分の 4 種類があります。
④	消音アイコン	消音の ON / OFF を表示します。消音中は で表示されます。
⑤	複数音声表示	複数音声がある番組を視聴している場合、現在選択されている音声を表示します。 ※ 音声の選択は、操作パネルで行います。詳しくは「P20」を参照してください。
⑥	多重音声表示	現在選択している音声 (主音声 / 副音声 / 主 + 副音声) を表示します。 ※ 多重音声の選択は操作パネルで行います。詳しくは「P20」を参照してください。
⑦	時刻表示	現在の日付と時刻を表示します。 ※ 日付と時刻はワンセグ放送の時刻情報を表示しているため、WS011SH 本体の時計と異なる場合があります。
⑧	(ヘルプ) ボタン	「StationMobile」のヘルプを表示します。
⑨	(閉じる) ボタン	「StationMobile」を終了します。

ワンセグ放送映像ビュー

ワンセグ放送の映像が表示される部分です。受信される映像情報にあわせて縦横比率（アスペクト比）で表示します。表示比率は「4:3」と「16:9」の2種類があります。

■ EPG モード / 操作モードの場合

[16:9]



[4:3]



■ 「全画面モード」の場合

[16:9]



[4:3]



字幕ビュー

受信中のワンセグ放送に含まれる字幕データを表示します。

複数の字幕情報がある番組では、「詳細設定」画面から表示する字幕を選択することができます。

※ 「詳細設定」画面については「P29」を参照してください。

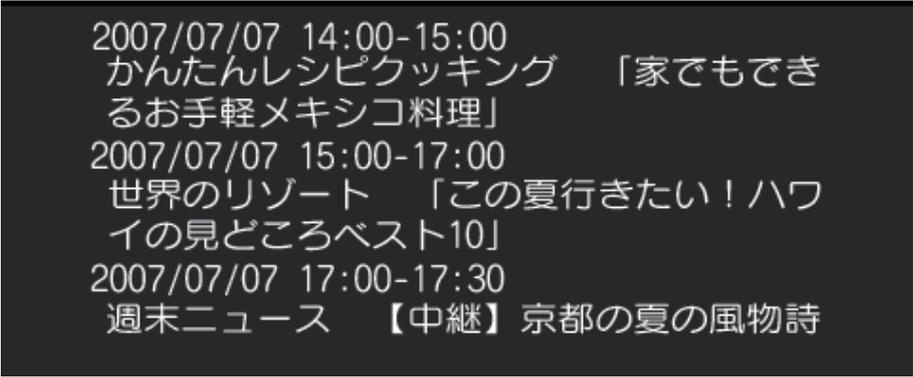
休みの日には、セントラルパークへ
散歩に出かけます。

EPG ビュー

EPG (Electronic Program Guide) とは「電子番組表」のことで、ワンセグ放送の放送波に含まれる番組表情報が「StationMobile」の画面上に表示されます。

「EPG ビュー」には、現在視聴している放送局の番組表が表示されます。現在の番組名および 2 ~ 10 番組先の番組名が表示されます。(表示される番組の数は、放送局によって異なります。)

「EPG ビュー」が選択されている状態で、WS011SH 本体のカーソルキー [⊙] を上(左) / 下(右) すると、スクロールします。



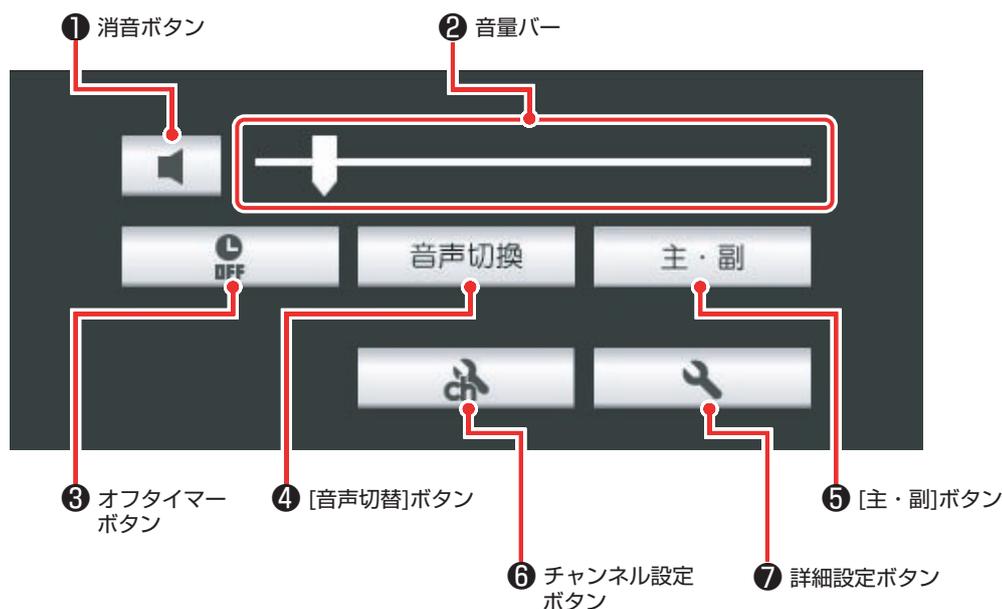
2007/07/07 14:00-15:00
かんたんレシピクッキング 「家でもできる
お手軽メキシコ料理」

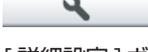
2007/07/07 15:00-17:00
世界のリゾート 「この夏行きたい！ハワイ
の見どころベスト10」

2007/07/07 17:00-17:30
週末ニュース 【中継】京都の夏の風物詩

操作パネル

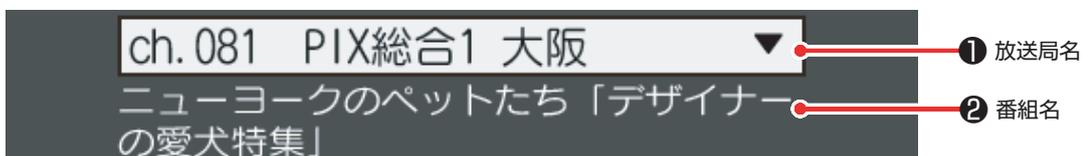
操作パネルではチャンネルの操作や画面、音声の設定ができます。



番号	項目	説明
①	 [消音]ボタン	タップすると、音声が消えます（消音）。もう一度タップすると、音声が 出ます。
②	音量バー	音量バーのスライダーを左右にドラッグして音量を調節します。
③	 [オフタイマー]ボタン	オフタイマーの設定をします。タップするたびに、[120分]→ [60分]→[30分]→[10分]→[OFF]とオフタイマーの設定が切り 換わります。
④	 [音声切替]ボタン	複数音声番組の場合、ボタンをタップするたびに[音声1]→[音声2] →[音声3]→[音声4]→[音声1]と音声が切り換わります。 ※ インフォメーションバーの複数音声表示が連動して切り換わりますが、複 数音声のない番組ではボタンをタップしても表示は切り換わりません。
⑤	 [主・副]ボタン	多重音声番組の場合、ボタンをタップするたびに[主(音声)]→[副(音 声)]→[主・副(音声)]→[主(音声)]と音声が切り換わります。 ※ 副音声のない番組でも、ボタンをタップするとインフォメーションバーの 多重音声表示が連動して切り換わりますが、音声は主音声が適用されます。
⑥	 [チャンネル設定]ボタン	「チャンネル設定」ダイアログを表示して、チャンネルスキャンやチャン ネルリストの編集をします。 ※ チャンネル設定についての詳細は「P25」を参照してください。
⑦	 [詳細設定]ボタン	「詳細設定」ダイアログを表示します。 ※ 詳細設定についての詳細は「P29」を参照してください。

チャンネルバー

現在視聴中の放送局名と番組名を表示します。放送局名の欄はドロップダウンリストになっていて、ここからチャンネル切り換えることができます。



番号	項目	説明
①	放送局名	現在選択されている放送局名が表示されます。 タップすると、チャンネルリストに保存されている放送局のドロップダウンリストが表示され、選局することができます。 ※チャンネルリストについての詳細は「P25」を参照してください。
②	番組名	現在視聴中の番組名が表示されます。 また、電波の受信状況に応じて以下の情報が表示されます。 「休止中」 放送終了などで、放送局から電波が出ていない状態です。 「無効な放送局指定」 . 受信できない放送局です。 「放送確認中」 電波を受信中です。しばらくお待ちください。 「圏外」 電波を受信できません。場所を変えてお試しください。

表示モード切換バー

各ボタンで表示モードの切り換え、またはワンセグ放送画面を全画面で表示します。



番号	項目	説明
①	[操作パネル表示] ボタン	「操作モード」に切り換えます。
②	[EPG表示] ボタン	「EPGモード」に切り換えます。
③	[全画面] ボタン	「全画面モード」に切り換えます。

StationMobile 操作ガイド

ワンセグ放送を見る

ワンセグ放送を見るには、以下の点を確認してください。

- ◆ ご覧になる地域のチャンネルリストを作成していますか？
ご覧になる地域が変わると、受信できる放送局も変わります。チャンネルスキャンが完了していない場合は、「P25」を参照してください。
- ◆ 受信状況に問題はありますか？
周囲に建物や壁などの遮へい物が多い場合は放送波を受信しにくくなります。受信状況の良い場所を探し、ロッドアンテナを十分のばしてご利用ください。

チャンネルを切り換える



タップ操作では

チャンネルバーをタップして、ドロップダウンリストからチャンネルを選択します。

キー操作では

カーソルキー[>]を上(左)/下(右)し、チャンネルリストの順で切り換えます。また、あらかじめチャンネル設定でキー番号(ワンタッチ選局キー)を設定しておく、テンキーで切り換えられます。

※ チャンネル設定については、「P25」を参照してください。

表示モードを切り換える

「StationMobile」の表示モードは、「表示モード切換バー」から切り換えます。

縦表示から各表示モードに切り換える



タップ操作では

「表示モード切換バー」で、切り換えたい表示モードのボタンをタップします。



- ※ 「全画面モード」のときは横方向の画面になります。
- ※ ワンセグ放送映像ビューの中をタップすることでも「全画面モード」に切り換えられます。

キー操作では

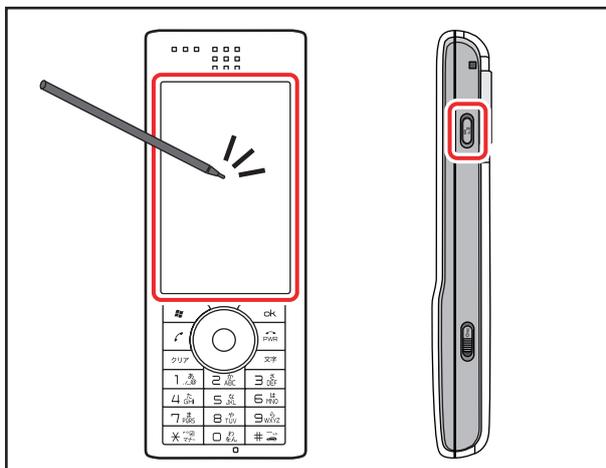
縦横切換キー [] で「全画面モード」に切り換えられます。

- ※ キー操作で「操作モード」および「EPGモード」に切り換えることはできません。

WS011SH のキーボードを出した時

「StationMobile」の起動中は、キーボードの出し入れによる画面方向の切り換え設定は無効になります。

全画面モードから縦方向の表示に切り換える



タップ操作では

画面上をタップします。

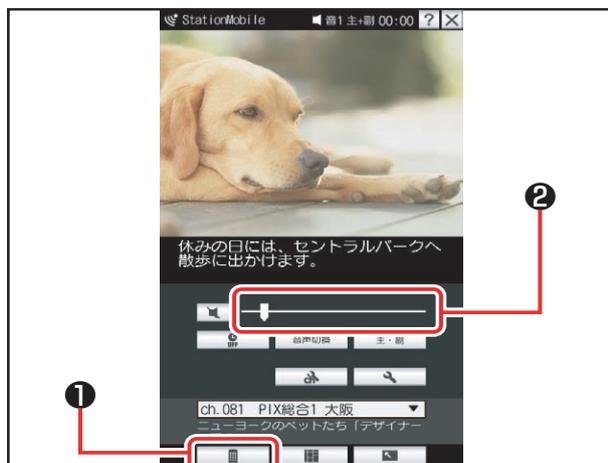
キー操作では

縦横切換キー [] を押します。

- ※ 「全画面モード」に切り換える前の表示モードに戻ります。

音量を調節する

音量を調節する



① [] ボタンをタップします。

② 音量バーのスライダーを左右にドラッグして音量を調節します。

※ 消音するには、 (消音) ボタンをタップします。

音量調節について

「StationMobile」上で調節する音量は、WS011SH 本体の音量設定と連動しています。たとえば、WS011SH の「Today」画面で音量をバイブレートに設定していた状態でも「StationMobile」を起動して音量を上げた場合、「Today」画面から音量オンにして上げた場合と同じ動作をしたこととなります。

チャンネルを設定する

チャンネルリストとは、チャンネルスキャンによって受信した放送局を1つのグループとして記憶させたものです。チャンネルリストは最大10個まで作成することができます。お使いになる地域ごとにチャンネルリストを作成しておくとう便利です。

新しくチャンネルリストを作る

通常のテレビ放送と同様に、ワンセグ放送でも地域によって受信できるチャンネルが異なります。ワンセグ放送をはじめて受信する地域などでは新しくチャンネルリストを作る必要があります。

1 チャンネル設定画面を表示する



- 1 [] ボタンをタップします。
→ 「操作モード」に切り換わります。
- 2 [] をタップします。
→ チャンネル設定画面が表示されます。

2 新しいチャンネルリストの番号を選択する



チャンネルリスト名の [] [] ボタンで何番のチャンネルリストでスキャンするかを選択します。

※ チャンネルリストに固有の名前をつけることはできません。

3 チャンネルスキャンを実行する

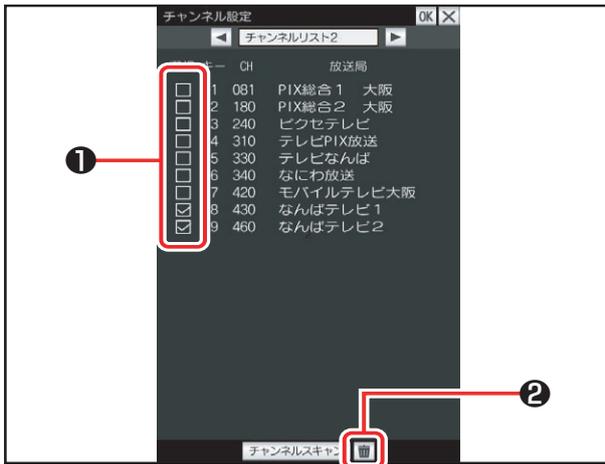


[チャンネルスキャン] ボタンをタップします。

→ チャンネルのスキャンを開始します。

- ※ チャンネルスキャンに数分かかる場合があります。
- ※ 受信できるチャンネルの一覧が表示されない場合は、受信状況に問題がある可能性があります。場所を変えてから、スキャンしてください。

4 スキャン結果から不要なチャンネルを削除する



① スキャン結果から受信しないチャンネルを選択します。

② [] ボタンをタップします。

スキャン結果に同じ放送局名が複数表示された場合

同じ放送を複数の場所から放送している放送局がある場合、受信できた分だけリストに表示されます。視聴するときの受信状態によって使いわけたり、不要なものは削除するなどしてください。

5 ワンタッチ選局キーの割り当てを確認する



WS011SH 本体のテンキーでチャンネルを切り換えるためのキーの割り当てを確認します。キー番号を変更する場合は以下の操作を行ないます。

タップ操作では

[キー] の列をタップして、ドロップダウンリストからキー番号を選択します。

キー操作では

変更する [キー] が選択されている状態で、割り当てたい番号をテンキーで入力します。

6 チャンネルリストを確定する



[OK] ボタンをタップします。

→ 作成したチャンネルリストが有効になった状態で、「StationMobile」のワンセグ視聴画面に切り換わります。

[X] ボタンをタップすると

[X] ボタンは、「チャンネル設定」画面で行った操作をキャンセルし、元の視聴画面に戻ります。チャンネルスキャンの結果や、変更/修正内容などは保存されません。

以上でチャンネルリストの作成は終了です。

チャンネルリストを編集中に、別のチャンネルリストに移動すると

チャンネルリストを編集中に、[◀][▶] ボタンで別のチャンネルリストに移動しようとする、リストの情報は更新されています。保存しますか? というメッセージが表示されます。

ここで [はい] を選択した場合、後に [X] ボタンでキャンセルしても、保存した内容まではチャンネルリストに反映されます。

既存のチャンネルリストを再スキャンすると

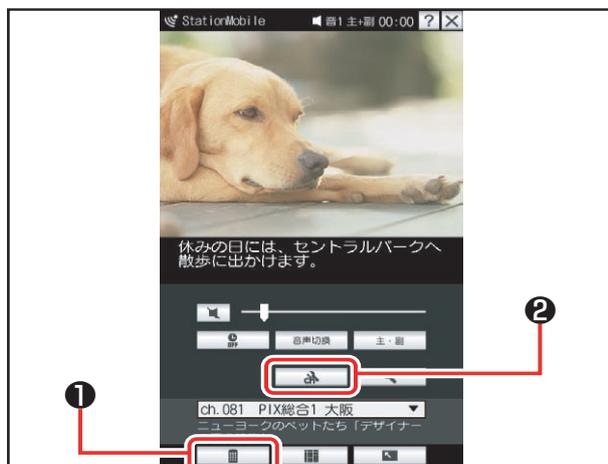
すでに設定しているチャンネルリストを選んで、[チャンネルスキャン] ボタンをタップすると、既存のチャンネルリストに、新たにスキャンしたチャンネルが追加されます。不要なチャンネルがあれば、スキャンの後で削除してください。

チャンネルリストを初期化するには

設定したすべてのチャンネルリストを初期化するには、「その他の設定 (詳細設定画面) P29」を参照してください。

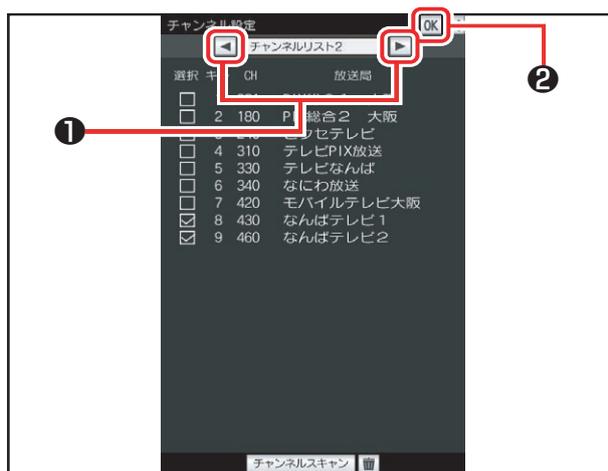
チャンネルリストを選択する

1 チャンネル設定画面を表示する



- 1 [] ボタンをタップします。
→ 「操作モード」に切り換わります。
- 2 [] をタップします。
→ チャンネル設定画面が表示されます。

2 チャンネルリストを選択する



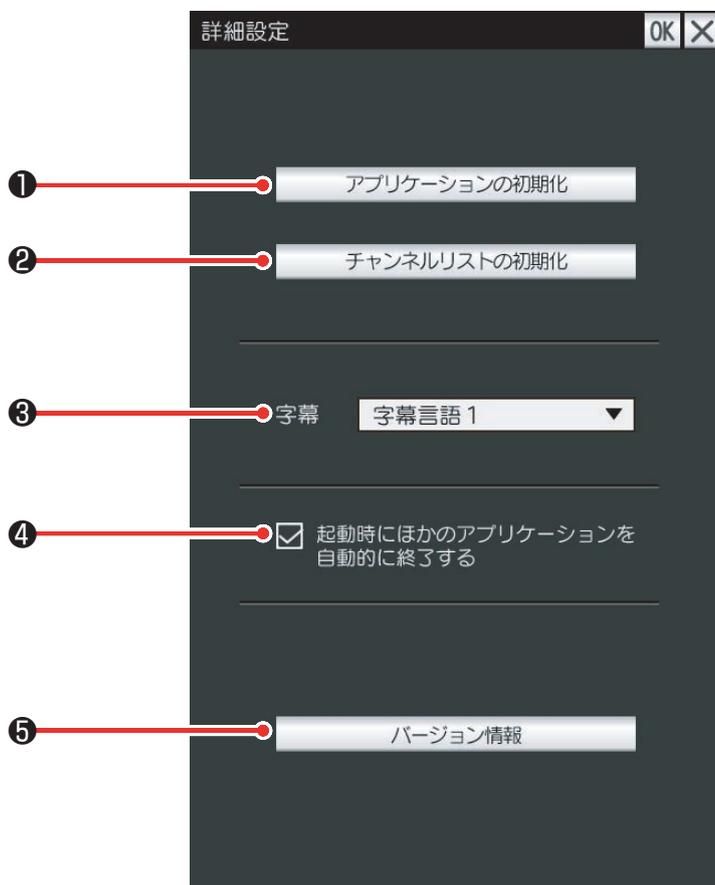
- 1 [] [] ボタンで視聴したいチャンネルリストを表示します。
 - 2 [] をタップします。
→ 選択されたチャンネルリストが有効になった状態で、元の視聴画面に戻ります。
- ※ [] をタップすると、表示したチャンネルリストを有効にせず、チャンネル設定画面を閉じます。

その他の設定（詳細設定画面）

「詳細設定」画面では、初期化や字幕などの設定ができます。

「詳細設定」画面を表示するには、「操作モード」に切り換えてから、[] ボタンをタップします。

「詳細設定」画面



番号	名称	説明
①	[アプリケーションの初期化]	アプリケーションの設定内容を出荷時の状態に戻します。 [アプリケーションの初期化]を実行すると、「StationMobile」が自動的に終了します。次回起動時は初回起動時の設定が必要になります。
②	[チャンネルリストの初期化]	チャンネルスキャンによって作成された、すべてのチャンネルリストを初期化します。
③	[字幕]	字幕情報が含まれている番組で、字幕言語が2つある場合は、言語の選択ができます。初期設定では[字幕言語1]が適用されています。
④	[起動時に他のアプリケーションを自動的に終了する]	「StationMobile」を起動するときに、すでに起動している他のアプリケーションを終了するかどうかの確認画面が表示されます。この設定を適用すると、確認画面を表示せずに起動中のアプリケーションを終了し、「StationMobile」を起動します。
⑤	[バージョン情報]	「StationMobile」のバージョンを表示します。「StationMobile」のアップデートするときなどに、現在のバージョンを確認します。

付録

困ったとき

症 状	対 策
「StationMobile」を起動すると、「チューナーユニットが認識できません。チューナーユニットが正しく接続されているか確認してください。」というエラーメッセージが表示される。	チューナーユニットが正しく装着されていない可能性があります。再度取り付け直してください。 また、WS011SHのファームウェアが最新でない場合は、アップデートしてください。
チャンネルスキャンに失敗する、または受信できるはずの放送局が登録されない。	場所を変えてチャンネルスキャンを行ってください。電波の届きにくい地域や、遮へい物のある場所ではスキャンが正常にできない場合があります。
ワンセグ放送視聴中、電波が途切れ途切れになる。または視聴できない。	遮へい物の無い場所、室内でも窓際など電波の届きやすい場所などに移動してください。
「StationMobile」が起動しない。	以下の内容を順にお試しください。 1. チューナーユニットを取り付けなおしてから「StationMobile」を再起動する。 2. WS011SHをリセット（再起動）する。 ※リセットの方法はWS011SH付属のマニュアルをご参照ください。 3. 「StationMobile」を再インストールする。 ボタンを連続してタップするなどの操作はシステムビジーの原因になる場合があります。操作はゆっくり確実に行ってください。
「StationMobile」がフリーズしてしまった。	
「StationMobile」を起動しようとする、「必要なファイルが見つかりません。」というエラーメッセージが表示される。	「StationMobile」のプログラムが正常にインストールされていません。再インストールしてください。
「StationMobile」が異常終了した後、WS011SH本体のキーボードを出したときに「画面の向きを横表示にする」機能が動作しなくなった。	「キーボードを出す時の画面の向き」を再度設定してください。[スタート]メニュー-[設定]-「システム」タブ-[ユーティリティ]-「縦横表示切換」タブから設定できます。
「StationMobile」が異常終了した後、WS011SH本体のバックライトに関する設定が無効になっている。	「バックライト」を再度設定してください。[スタート]メニュー-[設定]-「システム」タブ-[バックライト]から設定できます。
チューナーユニットをWS011SHに接続したとき、「ピコン」と音がする。	WS011SHがチューナーユニットを認識できない場合に起こります。この場合、リセット（再起動）が必要です。 ※リセットの方法は、WS011SH付属のマニュアルをご参照ください。
音が出ない。	安全運転モードになっている場合、「StationMobile」で音量を操作することはできません。安全運転モードを解除してから「StationMobile」を起動してください。
	マナーモードのシステム音がOFFになっている場合、「StationMobile」で音量を操作することはできません。マナーモードのシステム音をONにするか、マナーモードを解除してから「StationMobile」を起動してください。

こんなときは？

内 容	回 答
「StationMobile」使用中に WS011SH 本体のバッテリー残量が低下した場合。	バッテリー残量が低下した場合、メッセージが表示され、「StationMobile」が自動的に終了します。（「実行中のプログラム一覧」にも残りません。）
ワンセグ放送視聴中（「StationMobile」起動中）に電話が入った。	「StationMobile」起動中に着信すると、「StationMobile」は自動的に終了します。（「実行中のプログラム一覧」にも残りません。）
ワンセグ放送視聴中（「StationMobile」起動中）に E-mail が入った。	「StationMobile」起動中に E-mail の着信があると、「StationMobile」は自動的に終了します。（「実行中のプログラム一覧」にも残りません。）
ワンセグ放送視聴中（「StationMobile」起動中）に ライトメールが入った。	「StationMobile」起動中にライトメールの着信があっても、「StationMobile」は終了しません。
ワンセグ放送視聴中（「StationMobile」起動中）に WS011SH 本体の  (電源 / 終話キー) や、  (通話キー) を押した。	「StationMobile」起動中に、  (電源 / 終話キー) や、  (通話キー) を押すと、「StationMobile」は自動的に終了します。（「実行中のプログラム一覧」にも残りません。）
WS011SH のバッテリー消費を、できるだけ抑えたい。	WS011SH に USB 機器を取り付けると、WS011SH はスタンバイモードへ移行しなくなり、機器を使用しないときでも、常に微量の待機電力が消費されます。 ワンセグ放送を視聴しないときは、チューナーユニットを WS011SH 本体から取り外しておく、バッテリーの節約ができます。

サポート情報

ユーザーサポートについて

本製品についてのご質問・ご相談は、弊社ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

■ ユーザーサポートセンター

TEL: 0570-02-3500

FAX: 06-6633-2992

〒556-0011

大阪府大阪市浪速区難波中 2-10-70 パークスタワー 25F

受付時間：月曜日～金曜日

10:00～13:00、14:00～17:00

(年末年始、土日祝、弊社指定休日は除く)

ホームページについて

製品の最新情報やダウンロードなどは、弊社ホームページをご覧ください。

■ ホームページ

<http://www.pixela.co.jp/>

著作権に関する注意

本ソフトウェアの一部に次の条件下のモジュールが含まれています。

・ "This software module was originally developed by AT&T, Dolby Laboratories, Fraunhofer Gesellschaft IIS in the course of development of the <http://www.fmct.fujitsu.com/archive/product/tsworks/readme.html>, 14496-1,2 and 3. This software module is an implementation of a part of one or more MPEG-2 NBC/MPEG-4 Audio tools as specified by the MPEG-2 NBC/MPEG-4 Audio standard. ISO/IEC gives users of the MPEG-2 NBC/MPEG-4 Audio standards free license to this software module or modifications thereof for use in hardware or software products claiming conformance to the MPEG-2 NBC/MPEG-4 Audio standards. Those intending to use this software module in hardware or software products are advised that this use may infringe existing patents. The original developer of this software module and his/her company, the subsequent editors and their companies, and ISO/IEC have no liability for use of this software module or modifications thereof in an implementation. Copyright is not released for non MPEG-2 NBC/MPEG-4 Audio conforming products. The original developer retains full right to use the code for his/her own purpose, assign or donate the code to a third party and to inhibit third party from using the code for non MPEG-2 NBC/MPEG-4 Audio conforming products. This copyright notice must be included in all copies or derivative works." Copyright(c)1996.

・ SC 29 Software Copyright Licencing Disclaimer: This software module was originally developed by Coding Technologies and edited by PIXELA CORPORATION in the course of development of the ISO/IEC 13818-7 and ISO/IEC 14496-3 standards for reference purposes and its performance may not have been optimized. This software module is an implementation of one or more tools as specified by the ISO/IEC 13818-7 and ISO/IEC 14496-3 standards. ISO/IEC gives users free license to this software module or modifications thereof for use in products claiming conformance to audiovisual and image-coding related ITU Recommendations and/or ISO/IEC International Standards. ISO/IEC gives users the same free license to this software module or modifications thereof for research purposes and further ISO/IEC standardisation. Those intending to use this software module in products are advised that its use may infringe existing patents. ISO/IEC have no liability for use of this software module or modifications thereof. Copyright is not released for products that do not conform to audiovisual and imagecoding related ITU Recommendations and/or ISO/IEC International Standards. The original developer retains full right to modify and use the code for its own purpose, assign or donate the code to a third party and to inhibit third parties from using the code for products that do not conform to audiovisual and image-coding related ITU Recommendations and/or ISO/IEC International Standards. This copyright notice must be included in all copies or derivative works. Copyright (c) ISO/IEC 2002.

・ This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

OpenSSL License

=====

Copyright (c) 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

=====

- This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson(tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as

the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]